

イングリット・フジコ・ヘミング

ソロピアノリサイタル 2015

Program

F. Schubert (1797-1828)

Impromptus Op. 90 No.3
＜アンプロンプチュ 作品90-3＞

M. Ravel (1875-1937)

Pavane pour une infante defunte
＜亡き王女のためのパヴァーヌ＞

C. Debussy (1862-1918)

Jardins sous la Pluie <雨の庭>
Clair de Lune <月の光>

W.A. Mozart (1756-1791)

Sonata A-dur alla Turca
＜ピアノソナタ第11番(トルコ行進曲付き)＞

—— 休憩 ——

F. Chopin (1810-1849)

Nocturne Op. 9 No. 2
＜ノクターン第2番 作品9-2＞

Etude “Revolutionary” Op.10 No.12
＜エチュード 革命 作品10-12＞

F. Liszt (1811-1886)

Frühlingsnacht S. 568 (Schumann-Liszt)
＜春の宵 S.568＞

Etude No.6 (Paganini-Liszt)
＜エチュード 6番＞

La Campanella
(from Grandes Etudes de Paganini)
＜ラ・カンパネラ＞

(予告なく変更になる場合がございます。予めご了承くださいませ。)

フジコ・ヘミング (ピアノ)

Ingrid Fuzjko Hemming

スウェーデン人画家・建築家の父と、日本人ピアニストの母の間にベルリンで生まれる。母の手ほどきでピアノを始め、10歳でレオニード・クロイツァーに師事。クロイツァーは「彼女はいまに世界中の人々を感激させるピアニストになるだろう」と予言をしていた。東京芸大を経て、文化放送音楽賞・NHK毎日コンクール受賞、その後、ベルリン高等音楽学校に1位で入学、その後、ウィーンでパウル・バドゥラ＝スコダに師事。ブルーノ・マデルナ、レナード・バーンスタイン、チェルカウスキー、マガロフ等多くのクラシック界の権威にその才能を認められて支持を獲得し、コンサートを行っていたが、聴力を失うアクシデントに遭遇。1999年、リサイタルとNHKのドキュメント番組が大反響を呼び、デビューCD“奇蹟のカンパネラ”他をリリース。クラシック界異例の売上げで、日本ゴールド・ディスク大賞、クラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤーを4回受賞した。モスクワ・フィル、ロイヤル・フィルなど世界各地の著名オーケストラと共演。彼女と共演したミッシェル・マイスキーは「あなたの芸術を賞賛します」と形容している他、共演した多くのアーティスト達が絶賛している。また、ヨーロッパの数々のフェスティバルからも招待されている。

ワルシャワのショパンフェスティバル

Zycie Warszawy : responding to a heart-felt standing ovation...
enticed the prominent evening audience.

ジチェ・ワルシャワヴィ紙/
特別な招待客の心に響き、スタンディングオベーションを受けた。

The New York Times : Brilliant! She recieved a standing ovation!
ニューヨークタイムズ紙/
素晴らしい演奏!彼女はスタンディングオベーションを受けた!

毎年多くのチャリティ・コンサートを行っている他、大の動物愛護者であり、ドイツには彼女の名を冠した動物保護団体も出来ている。2013年、スペイン最大のクラシック・ラジオ番組「カタルーニャ・ラジオ」のリスナーにより、フジコの最新CDが1位に選ばれた。2014年には、9月から11月まで、ヨーロッパ9カ国11会場で演奏会を開催し、各地でスタンディング・オベーションを受け、大好評を博した。6月にはプラハラジオシンフォニーと共演、素晴らしい演奏に拍手の嵐であった。そして、今後の予定として、モスクワ国立交響楽団、モンテカルロ交響楽団より招待を受け、共演を控えている。